

# しんじんのうた

## ■ 楽曲データ

歌詞：仏典意識

楽曲：伊藤完夫 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M0979

## ■ 創作の経緯

1940年代の終わり頃、京都女子学園の礼拝用音楽として作曲された。歌詞は、蓮如上人450回遠忌の記念事業として行われた意識勤行（正信念仏偈の意識）。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『聖歌』浄土真宗本願寺派学校連合会 1963年

比較資料：『聖歌集 エレクトーン用』京都女子学園仏教文化研究所 1968年

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

京都女子学園における仏教讃歌による勤行の試みのなかで生まれた作品のひとつです。献華偈・献灯偈・献香偈（いずれも伊藤完夫作曲）や、敬礼文・三帰依などと組み合わせて、音楽礼拝に使用することができます。

## ◆ 作曲家について

伊藤完夫さん（1906～2005）は、愛知県生まれの作曲家・オルガニストです。1928（昭和3）年から10年ほど、東京市（当時）の公立小学校などに勤めながら、演奏活動を行いました。ことに、1931（昭和6）年からは、理学博士の田中正平に師事し、音響学・純正調オルガン奏法・日本音楽理論を学んでいます。

戦後の1948（昭和23）年に、増山顕珠京都女子大学学長に招かれて同大学の講師をつとめ、1964（昭和39）年に教授となり、数々の仏教讃歌を作曲しました。1988（昭和63）年には、仏教伝道協会の仏教伝道功労賞を受賞しています。また、武蔵野女子大教授も歴任し、築地本願寺のオルガニストもつとめました。

#### ◆テキストについて

親鸞聖人が『教行信証』行巻に、浄土真宗のみ教えを簡潔に示された讃歌「正信念仏偈」を意識したものです。

阿弥陀さまのご本願を信じ、『仏説無量寿経』やインド・中国・日本の七人の高僧の導きによって、お念仏のみ教えにめぐり遇えた喜びを深く感謝されています。（『日常勤行聖典』より）

歌う前に、全体の意味と意識の言葉を確認しましょう。歌詞は、30番まであります。すべて歌うことが本来ですが、いくつかを抜粋して歌ってもよいでしょう。

#### ◆歌い方について

音楽礼拝（法要）における経段に用います。短調ですが、歌詞の内容上も歌声は明るく響くよう、心がけましょう。

4番以降は楽譜に歌詞が記載されていないことが多いので、譜割り（歌詞を音符にどのように対応させるか）をあらかじめ確認しておきましょう。

曲の終わり方がやや変則的なので、調声の方や讃歌衆のみなさんは、前奏から1番に入るところや、各番のつなぎなどを事前の練習で確認しておきましょう。

#### ◆音源など

音源は、CD『仏教讃歌一歌集』に収録されています（歌入り・カラオケの2種類）。

また、音楽法要で用いる楽曲の選び方については、本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター『仏教音楽』第12号に特集として掲載していますので、ご参照ください。下記URL、QRコードからご覧いただけます。

[http://j-soken.jp/files/nl/nl\\_012.pdf](http://j-soken.jp/files/nl/nl_012.pdf)

